

議会報告会 会場報告書

担当班： 第 3 班 班代表者：荒木 礼子

概要		
地区名 : 多紀地区 日時 : 令和 7 年 1 1 月 7 日 (金) 場所 : ハートピアセンター 参加人数 : 1 6 人(男 1 6 人・女 0 人)	(1) 開会あいさつ : 荒木 礼子 (2) 質疑応答 : 隅田 雅春 (3) 意見・提言等 : - (4) 閉会あいさつ : 金崎 美和	挨拶・総括 : 荒木 礼子 司会進行 : 隅田 雅春 記録・受付 : 金崎 美和 渡辺 拓道 : 大内 正博 会場 (マイク) : 上田 英樹

【主な質疑】

質疑・意見 (第一部 議会報告について)	回 答
東部地区ではデマンドバス「のり～な」の乗降場所から 8 0 0 メートルほど離れた家もあるので、乗降場所を増やしてほしい。	乗降場所 (ミーティングポイント) については、集落のゴミステーションの数を参考に設定している。乗降場所の増設については、貴重なご意見、ご要望としてお受けする。
デマンドバス「のり～な」の電話での初回予約の登録手続きが複雑だったので、もう少し簡単にしてほしい。	貴重なご意見、ご要望としてお受けする。
現在問題になっているクマ対策について、市ではどのような対応をしているのか。	兵庫県森林動物研究センターによると、ツキノワグマの個体数は、県内で概ね 8 0 0 頭を目安としており、それを超える場合には積極的に捕獲することとしている。市としては県の方針に準じて対応している。
鳥獣被害対策実施隊とはどのような組織か。	有害鳥獣による農作物被害の防止・軽減を目的に有害捕獲・駆除活動を行う団体であり、猟友会の推薦を受けた実施隊員で構成されている。市役所の森づくり課長が隊長を務め、指示や調整を行っている。

議会報告会 会場報告書 2部 『 丹波篠山の農業を未来に繋ぐためにー現状と課題ー 』

多紀地区 3班 班代表者：荒木礼子

A 参加者からの意見や課題

- ・集落の高齢化に加え、新規就農者・後継者の不足や不在地主の増加により、農地の管理・耕作が困難となり、耕作放棄地が増えている
- ・サル、シカ、イノシシなどによる獣害が深刻化している上、高齢化と人手不足で、集落で行う獣害防護柵の点検が困難になってきている
- ・農業所得だけでは生活の安定が難しく、後継者難の一因となっている
- ・予測困難な気候変動により、農業生産・農業収入が不安定である
- ・農業を守ることは農村を支える要であり、暮らしの基盤である
- ・農業分野に限らず、地域全体でも人手不足が顕著化しており、地域の運営にも支障を来す懸念がある
- ・農業用水施設や用排水路が老朽化している
- ・農業資材・機械の価格高騰により経営が厳しい
- ・今年米価が記録的な高値となり、今後、米価下落によりさらなる経営悪化につながるのではないかと不安がある

B 参加者からの対策や解決するために必要なこと

- ・新規就農者の支援（経営の支援・技術研修・地域マッチング）
- ・獣害対策の強化が必要（高齢化した集落に対して、獣害防護柵点検等を地域でカバーするような支援が必要）
- ・中山間地域への重点支援（交通・水利施設・農地保全の強化）
- ・農業所得の安定化を図るため、農業技術研修の実施や気候変動に対応した農業の確立が必要（品種開発、新技術等）
- ・農業を担う市出資法人である地元農業法人の増強として、農業機械の投資など支援が必要
- ・農業を軸にした地域づくり
- ・地域住民に農業文化を継承していくことが重要
- ・インフラ整備の支援（圃場整備、用水路のパイプライン化への補助の拡充）
- ・定年退職者のセカンドキャリアとしての就農支援制度や女性の就農・育成支援制度の創設

【考察】参加者の意見から見えてくるもの

- ・農業や農地保全是単なる生産活動ではなく、農村の維持や文化の継承に深く関わるものであり、地域の存続に直結する重要な基盤である。
- ・地域にとって多面的な役割を持つ農業を軸に、持続可能な地域づくりを進めることが求められている。
- ・高齢化による担い手不足を補う「地域ぐるみの支援体制」の構築が不可欠である。
- ・農家の規模に応じた柔軟性のある支援施策の再設計が必要である。
- ・新規就農者・移住者受入れの支援体制、定年退職者や女性の就農・育成支援など、多様な層の参入を促す支援の充実が重要である。
- ・農業所得の安定化を図るため、農業技術研修の実施や気候変動に対応した品種の開発、新技術の確立が必要である。
- ・東部地域では担い手となる大規模農家も限られている中、地域農業を担う市出資法人である地元農業法人の体制や設備の強化が求められている。